

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表】

①

ウェルビーイングをテーマに集まったチームです。まずは女性の6時間労働。正社員でというところがポイントで。地域をあげて女性の働き方を改革していければということで女性が働きやすい形にして家庭環境もよくしていけたらというアイデアでした。

男性向けの女性の普段のお仕事のワークショップ、家事スクール。男性も勉強していきましょうと。

あと、すぐにできそうだなというところで、タウンミーティングの実施。今日のこういった場をさらに小さい単位で地域の皆さんで話し合いをしてより良い地域にするためにはどうしたらいいかということを考えていければということでした。

②

私たちは関係人口とまちづくりで集まりました。まずは6県で連帯しようという話で、6県というのは福井県、石川県、富山県、新潟県、長野県、岐阜県。この6県を合わせたら人口が900万ということで東京の人口と一緒に。6県を連帯して頑張っていこう。互いに磨いていこう。

人口が流出してしまうということで、県内には優秀な農業高校がいっぱいあるんですけども、大学がないということで、農業大学。私立大学等誘致して富山県内でいっぱい学べるようにしていきたいと思います。

それによって企業誘致。魅力ある企業が集まって、出て行った人も帰ってきて企業に勤められたらいいねと。

ITと農業というのは実は関係が深くて、例えば製品に関してこの肥料とこの肥料を使いたいなどパソコンに打ち込めばこれでこの量がいいですよと出てくるとか、うまくITと農業を掛け合わせられたらいいなと思います。

③

ブランディングというテーマで集まったチームです。差別化が大事です。砺波の強みは散居村の景観ということで、散居村はこのままだとどうしても衰退してしてしまう。それをいかに活用していくかというところで盛り上がりました。例えばアズマダチの建物は大家族が住むことが前提になっているので、分譲化すればもっと活用ができるのではないかとか。また都会から畑をやりたい人が1日でも体験できるような場所にしていこうとか。地域の資源を活かしたやり方が大事なのかなと思いました。

建物を活用していくためには用途制限を緩和して活用していかないとなかなか進んで行かないのかなと思いました。

他には富山県のことを富山県民が知らないということ。まずは自分たちが知る。それによって富山を好きになってどんどん広めていくということが大事じゃないかなと。

チューリップ公園がどうしてもフェア以外の季節にあまり人がいない。通年で人が集まり交流できる場所にしていくことで、砺波の良さをアピールできるのではないかと思います。

④

私達は幸せやウェルビーイング、砺波で暮らす私たち自身が幸せと感じながら生活していくことが大事なんじゃないかということに着目をして、一人が身近な二人を幸せにしたら、巨大な数の人が幸せになるのではないかということにハッとさせられたのですけども。幸せってどういうことかなと考えたら、役割があること。全世代に役割があって、全世代の人たちがもっと周りをよくしようとか、みんな心地よく過ごせるようにするにはどうしたらいいのかなということを考えていいのかなということ、砺波は元気な高齢者の方が多い。山の地域の方たちもものすごく元気です。街の中でも区画整理で田んぼや畑をやめられた方も多いのですけれども、数年前までは田んぼも畑もしていた元気な方が多いので、そういった力を眠らせておくのはもったいない。例えば若い方で田舎暮らしに興味がある方、やっぱりハードルが高いんです。敷居をまず低くしていくために田舎暮らしを体験できる村作りを試してみたらどうか。高齢者の方にそのお世話とか教えていただいたりとかお仕事としてしていただいて、となみpayのような地域通貨として対価を得ていただいて地域で使ってもらおう。ずっと人との繋がりを持って遊んでもらう。遊んでいる人は元気なので。働くことと遊ぶの好循環が長く続く砺波市であってほしいなと思う。まずは自分が幸せであること。身近な人を幸せにすることから始めていけたらと思います。

【知事コメント】

①

女性の働きやすさに深掘りをしていただきました。まさに女性のウェルビーイングを挙げていくということにつながる具体的なアイデアを挙げていただきました。男性も頑張るということでワークショップをやるという具体的な提案もありがとうございます。それからタウンミーティング。今日もそのひとつだと思うのですが、ぜひ自分たちでやりましょうよ。自然発生的に。ビジョンセッションは県が主催でさせていただきましたが、実はその後自発的に続いているまちもあるんですね。ビジョンセッションをきっかけにせっかく知り合った皆さんですから、袖が触れ合う以上の縁があったわけですから、このご縁を是非皆さんの人脈にしていきたい。ともにまちづくりについて考える場に育てていていただきたいと思います。

②

県の連帯ということで、道州制までは議論が煮詰まってないようですが、旅行のキャンペーンでも隣接する県でお互いに相乗りをしようということで話がまとまっています。お互いのwin-winな関係を高めていく。その先にもしかしたら道州制ということもあるのかもしれない。そして農業のことをとてもフューチャーしていただきました。この富山の豊かさの基盤は、農業にあるというふうに考えています。農業高校はおっしゃるように、中央高校や園芸高校など高校は頑張っておられます。農業大学はすぐにやりますとは言えませんが課題意識を持っております。新設大学は難しいと思うので、何かの理由で移転したい大学がないかなとか。アンテナを高く張っていきたいと思います。今若い担い手がなかなか入

ってきません。幸いに副知事は農林水産省から来て頂いておりますので、上手く連携をして富山の幸せの基盤、農業をしっかりと成長産業にしていきたいと考えています。

③

やっぱり砺波といえば散居村。その宝を活用していく。空き家だから壊すというところもありますが、壊すのは本当にもったいない話なんです。そこへ行く前におっしゃったように、いろんなやり方で活用の道を探る。民泊をして体験をしていただくもよしだと思います。地元のことをよく知るといことはまさに我々はコロナに痛めつけられているところですけども、いくつか副産物がありました。これは県外や海外へ旅行に行けなくなったので近いところに行こうということで、県としても色々と援助しました。近場の旅行マイクロツーリズムがとても盛んになりました。必要に迫られて近場を見たらいいところがやっぱりあるねと知れたのがある意味では副産物のひとつだと思います。大切なのは自分だけで独り占めをしないで発信をしていただく。それぞれのやり方で。是非お願いしたいと思います。チューリップ公園のことは市長にお任せします。市長がチューリップ公園やチューリップフェアにかける思いは本当にすごい。

④

一人が身近な二人を幸せにしていく。とても素敵な考えだと思いました。いきなりの移住はハードルが高いので、ワーケーションとかマルチハビテーションとか言っていますが、体験して定住してもらおう。富山県でもそういうメニューを作っております、何泊かは費用を出しましょうということをしてありますが、これを進めていくことは大切だと思います。そこで何らかの役割を果たしてもらおう。それを地域通貨で支払うというのはとてもいい視点だと思いました。地域通貨は一つのキーになるのではないかと思います。また考えていきたいです。いいアイデアをありがとうございます。

【夏野市長コメント】

全体的な感想を言うと何だつまらなかったなと。つまらなかったというか、もっととんだ話が出るかなと思っていました。やっぱり砺波の人はおとなしいのかなと。なんとなく想定した範囲のものが多かったかなと思いました。でも実は発表されなかったなにとんだアイデアが結構あるんですね。それはまた別の機会にという風に思いますが、いくつかお話を聞いた中で思ったことは、市がやっていることが伝わっていないなと思いました。私たちの広報の問題かもしれません。今日おいでになった方はそういうことに触れる機会がなかったのかもしれないので、県と協力しながらやっていきたいなと思いました。チューリップ公園の話はされましたが、確かにフェアは30万人ですけどもそれ以外は来てないと思っている人がいるみたいですが、そんなこと全然ないです。そういったことも含めて我々も発表していきたいなと思いますし、フェア以外の時のにぎわい創出は市役所というよりもいろんな人たちが寄ってたかってやってくれています。タウンミーティングの話がありましたけれども、今まさに梅檀野とか東山の方で自主的にいろんな人が話し始めています。それからアズマダチの活用ですけど、壊した場合の樫の一枚扉が100万円ぐらいで売れるそうです。ちょっとおかしな時代ですね。ところが全体で見ると価値がないと言われる。どんなもんなのかなと思います。私が一番面白かったのが、一人が二人を幸せにすればいいという話。すご

くいい言葉だなと思っていますので身近な人とやっていければと思いました。うまくまとめていただきありがとうございました。

【参加者感想】

参加者：6時間で正社員という斬新なアイデア、男性は思いつかないところかなと思いました。今日午後から福岡の駅ホールで女性の活躍を支援する講演会「とびだせ富山女子」というのをやっていますのでお時間あればぜひそちらにもと思います。「タカポケ」というのもやっておりまして、こういう形でブレストして地域おこしを考える会も何年か続いております。ちょっと宣伝をさせていただきました。

参加者：久しぶりに新鮮な感じでよかったなと思っています。女性6時間ということと、一人が二人を幸せにするということはほとんど発想になかった考えでした。少しずつ広がっていけばいいなと思いました。

参加者：海外から帰ってきて田舎に暮らしているのですが、改めて日本の女性の生きづらさを感じていて、この場で女性としての意見を言えたのでよかったなと思いました。

参加者：一人が二人を幸せにするという言葉が心に残りました。そのためには自分自身が幸せにならないといけないなと。今日ここに来ているみなさんはきっと幸せだと思いますので、私も含めて頑張ってみて二人を幸せにしていきたいなと思いました。

参加者：いろんな人のお話を聞いてみんな各地でいろんなことをやっているんですけど、小さい力で。それがみんな繋がってもっと砺波の魅力とか富山の魅力が広がっていいなと思ったので、今日の繋がりも大切にしてみんなで富山の魅力を発信していけたらなと思いました。

参加者：教員は私しかいなかったもので、一番言いたかったことをちょっと言わせてください。発達障害というのが認知されていますがとにかく田舎では学校では見た目ではわからない障害で苦しんで20歳過ぎても仕事ができない方がたくさんいますし、これからもっと増えるだろうと思います。富山県だけじゃないのですが、何か一歩でも半歩でも進めるようにしていただきたいとのことで。専門医にかかるのを親がためらう風潮が未だにあります。そのために県の東部にあるリハビリテーションセンターに通っていらっしゃる方がたくさんいますが、とにかく混んで大変だそうです。各市町村で指定医制度とかいろんな方法があると思います。専門家の意見を参考にしないと学校もやっていけない状況になりつつあります。そこをみなさんも含めてご理解いただきたい一歩進んで頂きたいと思っている次第です。

参加者：いろんな立場の方がいていろんな意見が出て、この場自体に意味があるのかなと思いました。人と人が強制的に離れてしまう時代になって人との関わりが希薄になっていった。一人が二人を幸せにとありましたが、自分から積極的に発信していかないとと思いました。

参加者：高齢者の方々の機会を増やしたいとあったのですが、一人が二人を幸せにするって家庭なのかなと思っていて。私の中ではお母さんが元気だと家族も。主人のお母さんも近くに住んでいておばあちゃんとお茶の時間がすごく楽しかったりするのでお母さんがもっと上の世代から学ぶことも多くて。家庭が円満になるってすごく女性のウェルビーイングが一気に加速するんじゃないかなって思います。

参加者：市民ひとりひとりの幸せが重なって県民の富山県の幸福度が上がっていくんだろうなと思うんです。私は学校を卒業してからずっと福祉の仕事しかしてなくて料簡は狭いかもしれないのですが、放課後デイの子どもたちと接することもありますし、上は100歳近い大人の方と接する機会もあります。小さな発達障害の子どもとか障害がある方々とか仕事リタイアして経済的に生産的な活動が出来なくなっている世代とか、仕事に就くことが難しい人の中にこそ幸せを、価値を周りが見つけて引き出して引き上げて、いろんな価値を付けていくことが大事なんじゃないかと思います。私よそから来たんですけど、砺波の方って優しいと思います。すごく好きです砺波が。みなさんあたたかいし。もともとのおだやかな気質でいろんな世代の人を包み込んでいく勢いがあるんじゃないかなと。砺波が大好きなのでこれからも力にちょっとでもなれたらいいなと思いました。

参加者：ふたつ言いたいことがありますて、ひとつは先ほど夏野市長が言われたことと同感なのですが、私県外出身で県外からくと富山県砺波市のいいところっていうのが目につくことが多くあります。意外と砺波の人って砺波のこと知らないひとが結構いるんだなと実感することが多々あります。コロナ禍ということでもう少し足元を見て生活していけばいいかなということが一点。もうひとつは、一人が二人を幸せにということ。単純な話であって。1000万人を幸せにするにはどうしたらいかなって逆転の発想をしたときに、一人が二人を幸せにするほうが早いなと思っただけです。そういった観点で日々物事を見ていけたらなと思っています。

参加者：LRT化の話があるのですが、城端から氷見まで直通で、その先氷見から七尾までぜひ通していただきたい。七尾の先は輪島まで。城端から高山までバスが出ていけば北陸ゲートウェイ構想が完成ということで。環水公園からフェリーで和倉温泉までいけたらいいよねとか想いがあります。私も地域で話し合いの場がほしいと思った時に行政の人につくってもらわないとできんよと言うのですが、今は時代が全然違います。下からどんどん自発的にみんなで話し合う場をつくっていくということが大事です。みんなでこういう場をつくっていきましょうよ。

知事：一人が二人に。その輪が広がったような気がします。そのためにまず、ここにいらっしゃるみなさんは幸せだと思っていますか毎日。私このまえポッチャの藤井さんとお話することがありました。10分くらいの間に5-6回「私は幸せ者です」と。ここにいらっしゃるみなさんが「私は幸せです」と毎日言えるようにしていきたい。果たして私はどうかと藤井さんと話していて反省をしたところです。藤井さんはパラリンピアンですから、身体的なハンディがえられるわけです。それでも「私は幸せです」と本当に何度も言われた。ここにウェルビーイングを考えていく上で大きなヒントがあるのではないかと私は思います。もち

ろん人それぞれのウェルビーイングだと思うんですね。ぜひ自分のウェルビーイングって何だ？と考えていただいて、幸せだと毎日鏡を見て言えるように。周りの人にも波及できるように。今日はそんなきっかけになればと思いました。

【知事あいさつ】

今日はあくまできっかけだと思っています。今日をきっかけにまずはみなさんのウェルビーイングを上げていただくと共にこんな話をご家庭で、あるいは会社でお店で話題を。新しい繋がりが出来て新しいアイデアが出て。今日は県主催でさせていただきましたが、これからはみなさんひとりひとりがやっていければと思います。我々は今日のいろんなご意見をしっかりと持ち帰りまして県の成長戦略に活かしていきたいと考えています。みなさんが次の富山県の成長戦略の一員になったということです。我々はしっかりと責任を持って形にしていきますが、実行する段階もぜひみなさんも共にお願いしたいと思います。幸せ人口1000万のうち100万人くらいは砺波でお願いしたいと思います。今日はありがとうございました。